4 県共通尿沈渣フォトサーベイについて

過去 3 年間の青森県の傾向

◎阿部 紀恵[1)]、坂牛 省二[2)]、高杉 洋子[3)]、貝田 奈津子[4)]、小野 篤史[5)]、下川 波歩[6)]
八戸赤十字病院[1)]、平内町国民健康保険 平内中央病院[2)]、公益財団法人 鷹揚郷腎研究所 弘前病院[3)]、地方独立行政法人 市立秋田総合病院[4)]、済生会新潟病院[5)]、岩手医科大学附属病院[6)]

【はじめに】平成 28 年度から青森県、岩手県、秋田県および新潟県で 4 県共通尿沈渣フォトサーベイを行っている。今回過去 3 年間の結果をもとに、県内で低正解率を示した設問の傾向を分析した。さらに平成 30 年度の結果から青森県と他県で正解率に差がみられた設問を調査した。

【方法】対象は平成 28 年度から平成 30 年度までの 3 年間で出題した 36 設問。尿沈渣検査法 2010 の分類に従って評価し、正解率 80%を下回った設問の傾向を分析した。また Fisher's exact test を用い、有意水準 5%として、平成 30 年度サーベイ評価対象 12 設問の県差の有無を確認した。

【結果】36 設問のうち、正解率が 80%を下回ったのは 9 設問であった(H28；4 設問、H29；2 設問、H30；3 設問)。その内訳は、①赤血球形態の鑑別 4 設問、②白血球(好中球、好酸球、単球)3 設問、③大食細胞 1 設問、④尿細管上皮細胞 1 設問であった。①赤血球形態は県内で低正解率となることが多い成分だが、H28 年 27.4%、H29 年 52.5%、H30 年 62.7%、70.6%と正解率が上昇傾向であることが分かった。小球状の糸球体型赤血球や、ドーナツ状不均一赤血球を主体とする糸球体型赤血球の多彩性が認知されてきたためと思われる。②白血球(アメーバ状形態の好中球)と棘突起・アメーバ偽足型尿細管上皮細胞、③大食細胞と鋸歯型の尿細管上皮細胞、④空胞変性円柱型尿細管上皮細胞と扁平上皮細胞など、尿細管上皮細胞との鑑別に苦慮した設問があった。尿細管上皮細胞は、基本型、特殊型を問わず形態が類似する沈渣成分が多いが、尿細管上皮細胞が結晶や円柱に付着したフォトの設問では正解率が良好であった。尿細管上皮細胞の形態の多様性の認識や、類似する細胞との鑑別力向上が今後の課題と思われた。また平成 30 年度サーベイで青森県と他県で正解率に有意な差がみられたのは、膣トリコモナスと糞便成分を問う 2 設問であった。

【結語】過去 3 年間分のサーベイ結果と他県との比較から、青森県の傾向と今後の課題が明らかになった。

連絡先 0178-27-3111(内線 4312)